



モントリオール・プロセス国際シンポジウム SDGs 達成に向けた森林の貢献 森林情報の活用と基準・指標

日時 2019年 **10月21日** (月)
13:30—17:30 (13:00 受付開始)

会場 熊本市国際交流会館
(熊本県熊本市中心区花畑町4番18号)



申込方法 申込は WEB から <http://www.nittsu-ryoko.co.jp/event/fa2019>



林野庁



SDGs 達成に向けた森林の貢献：森林情報の活用と基準・指標

概要

森林は、2015年の国連総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標15「陸の豊かさを守ろう」をはじめ多くの目標に関係しています。

近年、人為活動に伴う森林の減少・劣化や気象災害による森林被害の増加等が地球規模の課題として注目されつつあり、持続可能な森林経営の推進が一層求められています。その際には、森林の状態を客観的、科学的に把握し、SDGsのような広範な目標の達成に向けて国全体あるいは地域の森林経営の状態を明確にしていくことが重要です。

1990年代より、森林経営の持続可能性を客観的に把握する「ものさし」として基準・指標を作成する取組が進められており、我が国は温帯・亜寒帯地域の森林を対象とするモントリオール・プロセスの中で取組を進めてきました。

本シンポジウムでは、国内外から専門家を招いて、近年の森林分野に関連する国際的な動向やモントリオール・プロセスが定めた「基準・指標」を活用した森林情報の把握に関する各国の取組等について技術・政策面から紹介し、今後の展望について議論します。

持続可能な開発目標（SDGs）

2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標で、17のゴール・169のターゲットから構成されます。SDGsは発展途上国のみならず、日本を含む先進国自身も取り組む普遍的なものです。

モントリオール・プロセス

森林の持続可能性を客観的・科学的に把握や分析するための「基準・指標」を議論する国際的な取組です。日本を含む環太平洋地域の温帯・亜寒帯林地域を対象とする12ヶ国が加盟しています。

加盟国：アメリカ、アルゼンチン、ウルグアイ、オーストラリア、カナダ、韓国、中国、チリ、日本、ニュージーランド、メキシコ、ロシア

プログラム（予定）

13:30	開会（小坂 善太郎 林野庁 森林整備部長）	
セッション1：SDGsと持続可能な森林経営		
13:40-14:30	キーノートスピーチ プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の森林を巡る国際的な課題（国連森林フォーラム） ・モントリオール・プロセスの概要と活動（林野庁） ・ITTOの概要と活動（国際熱帯木材機関）
14:40-15:40	モントリオール・プロセス 加盟国等の取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・基準・指標を用いたSDGs達成状況の評価（日本） ・森林情報の政策への反映（カナダ） ・森林情報の把握のための新たな技術（ニュージーランド） ・地方レベルにおける基準・指標の取組（中国）
15:40-16:10	休憩	
セッション2：パネルディスカッション		
16:10-17:20	モデレータ パネリスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ティム・ペイン（モントリオール・プロセス技術諮問委員会委員長・Scion 研究所） ・バーバラ・タボラ・ジェーンチル（国連森林フォーラム） ・柱本 修（国際熱帯木材機関） ・三浦 覚（森林研究・整備機構森林総合研究所） ・サイモン・ブリッジ（カナダ天然資源省カナダ森林局） ・アダム・ヴァン・オブジーランド（ニュージーランド 第一次産業省） ・（調整中）（中国 国家林業・草原局）
17:30	閉会	

使用言語 日本語／英語（同時通訳）

問合せ先 日通旅行株式会社 総合営業部 営業第二課【担当：芳賀・大村】
〒105-0004 東京都港区新橋 1-5-2 TEL：03-3573-8344 / FAX：03-3573-8348

開催者 主催：林野庁（担当：計画課海外林業協力室）
共催：モントリオール・プロセス